

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 10 月 21 日現在

機関番号：27104

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23593320

研究課題名(和文) 帝王切開分娩を経験した女性のための出産選択への支援：看護職者による決定援助の評価

研究課題名(英文) Evaluation of decision aid program for women choosing method of birth after previous cesarean in Japan

研究代表者

鳥越 郁代(Torigoe, Ikuyo)

福岡県立大学・看護学部・准教授

研究者番号：30217591

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、帝王切開(帝切)を経験した女性の次子のお産選択を支援するための決定援助の介入効果を評価をすることである。3施設39名の研究協力者に、看護職4名の研究協力を得て、決定援助が提供された結果、お産選択に関する知識の向上と決定上の葛藤の軽減が有意に確認された。VBAC成功者は、予定帝切の女性と比較しお産満足が高かった。お産後女性は、「自分自身の意思決定に向き合い」、「支えられているという安心感」をもっていたことが確認された。本研究は看護職者による意思決定支援の有効性を示唆するものである。今後さらに女性の意思決定を支援する戦略について、医師との連携を図りながら検討していく必要がある。

研究成果の概要(英文)：This study is to evaluate a decision aid intervention for supporting women choosing method of birth for women with prior cesarean delivery. The quasi-experimental before and after study involving 39 pregnant women was conducted within three institutions, in collaboration with four clinicians. Increase in knowledge scores and decrease in DCS scores were observed after women received the decision aid intervention and were statistically significant. Birth satisfaction scores were highest for women who achieved VBAC compared with women who experienced repeat cesarean. Women felt the decision aid helped them to "face own decision making" and create a "feeling supported". This study suggests the potential value of decision support during pregnancy. Women's individual values and preferences must be respected by health professionals from the shared decision making. Strategies to support women's decision making in collaboration with pregnancy care providers is needed.

研究分野：周産期における女性の意思決定支援

キーワード：反復帝王切開 VBAC TOLAC 意思決定の共有 決定援助 インフォームドチョイス

1. 研究開始当初の背景

近年、先進諸国における帝王切開率は、すでに20%を超え、年々上昇の一途をたどっており、日本でも同様の傾向がみられている。帝王切開分娩を経験した女性は、2つの分娩方法（選択的反复帝王切開分娩, Elective Repeat Cesarean Delivery : ERCD あるいは帝王切開後の経膈分娩, Vaginal Birth after Cesarean: VBAC）のどちらかを選択、決定し、出産に臨むことになる。どちらの分娩方法を選択するにしても、利点とリスクの両面を備えており、その意思決定のプロセスにおいては、迷いや葛藤を伴う。

2. 研究の目的

本研究の目的は、帝王切開（帝切）を経験した女性の次子の出産選択を支援するための決定援助の介入効果について評価をすることである。

3. 研究の方法

(1) 研究デザイン

本研究は、帝切を経験した女性に、看護職者による決定援助（決定援助プログラム）を提供し、その介入効果を評価する準実験的研究である。

(2) 調査期間：2012年7月-2014年12月

(3) 研究協力者

1回の帝切出産経験をもつ試験的経膈分娩（TOL : Trial of Labor）が可能な女性

(4) 研究協力施設と共同研究者

3つの産科施設の4名の共同研究者（助産師3名、看護師1名）の協力を得て実施した。

(5) 評価尺度（Outcome measures）

介入評価のための尺度として、決定上の葛藤（Decisional Conflict Scale DCS : 16項目）スコア、出産選択における知識スコア（15項目）、出産満足度（10点満点のアナログスケール）を用いた。また出産後の半構成的インタビューの質的分析より、決定援助の効果についての検討を行った。

(6) 決定援助プログラム

決定援助プログラムは、オタワ決定サポート枠組みに基づき、以下の3つのステップから構成されている（図1）。

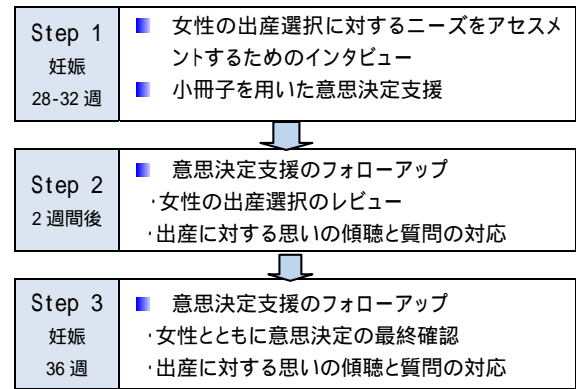


図1 決定援助(Decision Aid: D.A)プログラム

(7) 研究の手順とデータ収集

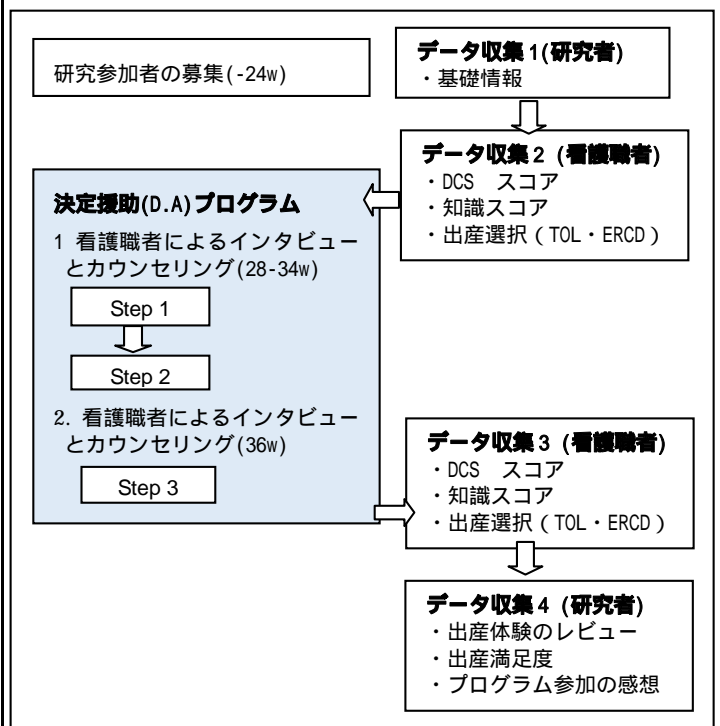


図2 研究の手順とデータ収集

(8) 決定援助のツールとしての小冊子（「出産の選択」日本語版）

この小冊子は、Shorten(2006)が開発した”Birth choices”を開発者の承諾を得て、翻訳したものである。一部の内容については、日本の医療や看護ケアの現状に合わせて修正し、日本人の女性が理解しやすいような表現を用いて作成した。小冊子の内容は、以下の2つの部分から構成されている。

- ・2つの出産方法に関する情報（リスクとメリットを含む）
- ・出産選択における個人の価値を明確化するためのエクササイズ

(9) 倫理的配慮

本研究は、福岡県立大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

4. 研究成果

(1) 研究協力者の特性

研究協力者の平均年齢は、31.4歳 (SD 4.36) であった。前回帝切の種類で分類すると、選択的帝切の経験者が 19 名 (48.7%)、緊急帝切の経験者が 20 名 (51.3%) であった (表 1)。

表 1 研究協力者の特性

N=39

項目		Data / N (%)
年齢	平均(SD)	31.4 (SD 4.36)
前回帝切の種類	選択的 (予定)	19 (48.7)
	緊急	20 (51.3)
職業の有無	有	16 (41.0)
	無し	23 (59.0)
教育背景	高校	14 (35.9)
	専門学校・短大	14 (35.9)
	大学	11 (28.2)

(2) 介入前後における決定上の葛藤と知識の変化

決定援助プログラムの介入前後において、出産選択に関する知識スコアは有意に増加し ($p < 0.0001$)、決定上の葛藤 (DCS) スコアは有意に低下した ($p < 0.0001$) (表 2)。

表 2 決定援助介入前後の DCS スコアと知識スコアの変化

	介入前 平均 (SD)	介入後 平均 (SD)	t 値	P 値
DCS スコア	2.75(0.61)	2.03(0.44)	-8.89	<.0001
知識 スコア	7.28(2.99)	10.0(2.57)	6.98	<.0001

(3) 決定援助プログラム介入前後の出産選択の変化と出産結果

経膈分娩 (VBAC) を希望していた女性は、決定援助 (D.A) プログラム介入前後で 24 名から 20 名に減少し、最終的に 15 名が VBAC での出産となった。一方帝切を希望していた女性は、決定援助プログラム介入前後で 5 名から 16 名に増加し、最終的に 20 名が選択的帝切での出産となった。

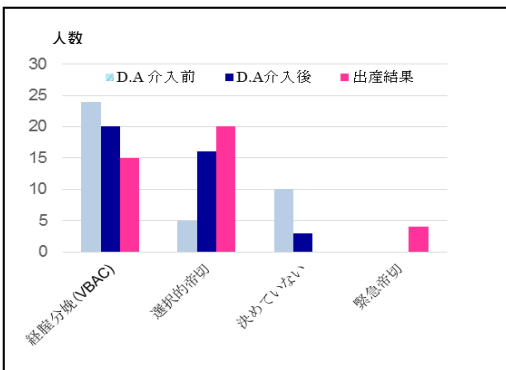


図 3 決定援助介入前後の出産選択の変化と出産結果

D.A 介入前 平均週数 (SD) 29.0 w(2.73)

D.A 介入後 平均週数 (SD) 35.8 w(1.49)

帝切での出産が増加した理由として、女性自身の決定、医学的適応 (切迫早産、GDM、骨盤位)、病院の方針に基づいた条件 (予定日超過、医師の勧め) などが挙げられた (図 3)。

また 4 名の女性は、前期破水や児頭下降遅延により、緊急帝王切開となった。

(4) 出産方法による満足度の相違

出産満足度を 10 点のアナログスケールで評価した。その結果、妊娠中に帝切を選択した女性と VBAC を選択した女性の出産満足度では、有意差は認められなかった。しかし、VBAC に成功した女性の出産満足度は、帝切で出産した女性の満足度と比較し、有意に高かった (9.13 vs 8.04, $p < 0.05$) (図 4)。

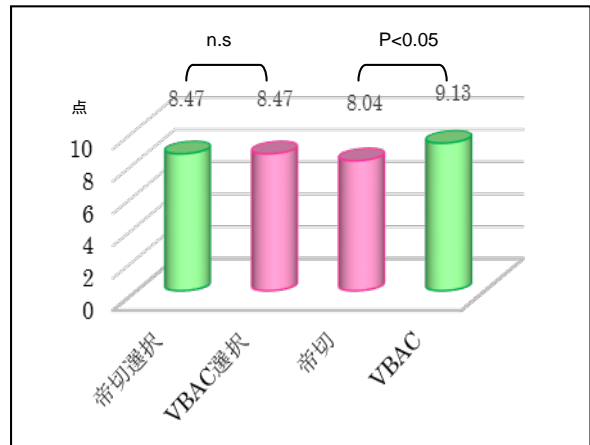


図 4 出産方法による満足度の相違

(5) 意思決定プロセスにおける女性の経験

産後のインタビューから、女性の意思決定プロセスの経験について質的に分析した結果、「出産選択についての情報を得る」、「自分自身の意思決定に向き合う」、「支えられているという安心感」の 3 つのテーマが抽出された。

決定プログラムに参加した女性は、自分自身の出産選択について考え、意思決定に関与し、自分の意思を明確にしていることが確認された。その一方で、出産間際まで出産方法の選択に迷っている女性もいた。また助産師の前向きな対応や意思決定プロセスを共有した時間によって、女性たちは、「支えられているという安心感」を得ていた (表 3)。

表 3 意思決定プロセスにおける女性の経験

テーマ	サブテーマ
出産選択についての情報を得る	利点とリスクを含んだ VBAC の情報
	緊急帝切を含めた帝切出産に関する情報
自分自身の意思決定に向き合う	出産方法の選択について真剣に考える
	意思決定プロセスに関わる
	自らの選択の明確化
支えられているという安心感	出産間際まで出産方法の選択に迷う
	助産師の言葉かけと前向きな対応
	助産師の継続的支援
	女性の心配していることを尋ねる

(6) 考察・結論

本研究は、看護職による妊娠期の意思決定支援の有用性を示唆する結果となった。看護職は、共有意思決定 (Shared decision making) の視点から、女性の出産に対する価値観や意向を尊重していく必要がある。

また、VBAC にトライ (TOL) したいと考えていた女性は、妊娠経過とともに VBAC にトライすることに対して迷い、難しさを感じており、その人数も徐々に減少していた。その理由には医学的適応 (切迫早産、GDM、骨盤位) の他に、施設の方針 (医師の勧め、予定日超過による帝王切への変更) が挙げられ、こうした方針が、最終的な女性の選択と出産結果に影響をもたらしていた。

このことから、VBAC を希望する女性に対しては、VBAC に伴うリスクとメリットに関する情報提供の他、施設の方針についても事前に説明を行い、女性が納得した上で出産に臨めるように支援していく必要がある。

共有意思決定とは、医療者と患者がお互いに情報を共有し、主に健康上の意思決定を行うことである (Charles et al., 1997; Charles et al., 1999)。この概念は、一般的に西欧文化で広がりを見せているが、日本を含む西欧以外の文化では、十分に理解されていないところがある (Obeidat et al., 2013)。また日本人の意思決定の特徴として、依然として医師 - 患者間の関係における「おまかせ」的体質が存在していること、そして医師への依存性が高いということがあり (山崎, 2001)。こうした日本人の特性が本研究の結果においても影響していたことが考えられる。

よって、ケアを提供する看護職として、文化的な視点から女性の意思決定の支援のあり方について検討するとともに、妊娠出産における女性の意思決定を支援していく戦略について、医師との連携を図りながら検討を重ねていく必要がある。

参考文献

- Charles C, Gafni A, Whelan T, Shared decision-making in the medical encounter: What does it mean?(or it takes at least two to tango), *Social Science & Medicine* 44, 1997, pp. 681-692.
- Charles C, Gafni A, Whelan T, Decision-making in the physician-patient encounter: revisiting the shared treatment decision-making model, *Social Science & Medicine* 49, 1999, pp.651-661.
- Obeidat R. F, Homish G.G, Lally R.M, Shared decision making among individuals with cancer in non-Western cultures: a literature review, *Oncology Nursing Forum* 40, 2013, pp.454-463.
- Shorten A, Birth Choices. What is best for you...Vaginal or Caesarean Birth?, 2006,

Capers Books.

山崎喜比古、健康と医療の社会学、2001、東京大学出版会。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 4 件)

鳥越郁代、中根直子、パースにおける NBAC (Next Birth after Caesarean) クリニックでの研修報告 - 帝王切開を経験した女性への助産ケアとは -、査読有、2016、助産雑誌、掲載確定(掲載号未定)

Torigoe I, Shorten B, Yoshida S, Shorten A, Trends in birth choices after caesarean section in Japan: A national survey examining information and access to vaginal birth after caesarean, *Midwifery*, 査読有, 37, 2016, pp. 49-56.
DOI: 10.1016/j.midw.2016.04.001

Shorten A, Torigoe I, Weinstein L, Muto A, Continuity, Confidence, Compassion and Culture: Lessons learned from Japanese midwives. *Journal of Midwifery & Women's Health*, 査読有, 59 (5), 2014, p.551.
DOI: 10.1111/jmwh.12249

鳥越郁代、藤木久美子、古田祐子、佐藤繭子、安河内静子、吉田静、小林絵里子、佐藤香代、石村美由紀、助産師学生の分娩期助産課程の到達状況に関する一考察.福岡県立大学看護学部紀要, 査読有、2012、9 (2)、pp. 53-61.

〔学会発表〕(計 10 件)

鳥越郁代、横手直美、山下恵、VBAC(帝王切開後経膈分娩)に挑戦した女性の出産体験 - 個別分析の結果 -、第 6 回 (30 回) 日本助産学会学術集会、京都大学(京都府・京都市)、2016.3.19

箱崎友美、鳥越郁代、佐藤香代、帝王切開分娩による出産満足度と産褥早期のうつ傾向の関連、第 6 回 (30 回) 日本助産学会学術集会、京都大学(京都府・京都市)、2016.3.19

横手直美、鳥越郁代、山下恵、VBAC(帝王切開後経膈分娩)に挑戦した女性の出産体験 - 統合分析の結果 -、第 6 回 (30 回) 日本助産学会学術集会、京都大学(京都府・京都市)、2016.3.19

Torigoe I, Yoshida S, Shorten A, Evaluation of a decision aid program for women choosing method of birth after previous cesarean in Japan. *ICM 11th Asia Pacific*

Regional Conference, Pacifico Yokohama
(神奈川県・横浜市), 2015. 7.22

Torigoe I, Yoshida S, Shorten A, Birth
choice after cesarean section in Japan:
focusing on giving information about VBAC
and repeat cesarean. ICM 30th Triennial
Congress, Prague Congress Centre, Prague,
(Czech Republic), 2014.6.2

鳥越郁代、吉田静、帝王切開分娩を経験した
女性の出産選択における意思決定支援に関
する調査、第3回(27回)日本助産学会学
術集会、金沢歌劇座(石川県・金沢市)、
2013.5.2

鳥越郁代、吉田静、帝王切開分娩を経験した女
性の出産選択における意思決定支援に関す
る調査、第53回日本母性衛生学会、アクロ
ス福岡(福岡県・福岡市)、2012.11.17

鳥越郁代、吉田静、帝王切開後の出産選択を考
えるセミナーの開催と評価～参加者の視点
から～、第53回日本母性衛生学会、アクロ
ス福岡(福岡県・福岡市)、2012.11.17

鳥越郁代、帝王切開分娩を経験した女性のため
の次子の分娩方法選択への支援:決定援助
プログラムの介入評価. 第2回(第26回)
一般社団法人日本助産学会、札幌コンベン
ションセンター(北海道・札幌市)、2012.5.1

鳥越郁代、藤木久美子、佐藤繭子、古田祐子、
安河内静子、吉田静、小林絵里子、佐藤香代、
石村美由紀、助産師学生の出産期助産診断の
到達状況と課題、第52回日本母性衛生学会、
国立京都国際会館(京都府・京都市)、
2011.9.29

〔図書〕(計2件)

鳥越郁代、日本看護協会出版、「第2章 助産
師が行うケアの概念、3.女性の意思決定を
支えるしくみ」、山本あい子編
『助産師基礎教育テキスト第1巻、助産概
論』(第1版)、2015、42-54.

鳥越郁代、ヌーヴェルヒロカワ、「正常な産
褥の看護ケア」、村本淳子・高橋真理編『周
産期ナーシング』(第2版1刷)、2012、
197-214、21-227.

〔その他〕

[http://www.fukuoka-pu.ac.jp/academics/nurse/
files/torigoe.pdf](http://www.fukuoka-pu.ac.jp/academics/nurse/files/torigoe.pdf)

6. 研究組織

(1)研究代表者

鳥越 郁代 (TORIGOE Ikuyo)
福岡県立大学・看護学部・准教授
研究者番号: 30217591

(2)研究分担者

吉田 静 (YOSHIDA Shizuka)
福岡県立大学・看護学部・助教
研究者番号: 30453236

(3)研究協力者(海外)

Allison Shorten
Yale School of Nursing, USA・准教授